1区 鈴木 樺連

2区 中川 千愛

3区 花野 桃子

総合2時間23分11秒
17位/30チーム

in 宗像・福津

プリンセス駅伝

第12回 全日本実業団対抗女子駅伝競走大会予選会

10月18日(日)

惜しくも予選突破ならず

4区 小池 彩加

5区 鈴木 千晴

6区 矢内 楓恋

日立女子陸上競技部事務局







11月に宮城県にて開催されるクイーンズ駅伝(全日本実業団対抗女子駅伝)の予選会となるプリンセス駅伝が宗像市・福津市のコースで開催され、全国から集まった30チームによる熱戦が繰り広げられました。
当日は、この時期としては異例の気温29.9度を記録し、脱水症状による途中棄権が2チームも出る厳しいコンディションの中、日立の選手たちは予選通過ラインとなる16位以内をめざしてレースに臨みました。
1区を走るキャプテンの鈴木樺連選手は序盤から苦しい展開となりながらも、予選通過への流れをつくろうと最後まで粘りの走りを見せ、26位で襷をつなぎました。
2区は昨年1区で区間賞を獲得した中川選手が積極的なレースを展開し、後半は苦しみながらも順位を2つ上げ、24位で3区の花野選手へ襷を託しました。
今年の春先に疲労骨折を負い、夏まで走れない苦しい時期を過ごした花野選手は、復帰後急ピッチで状態を上げ、各チームのエースが集う最も距離の長い3区を昨年に続いて担当。4人抜きの快走を見せ、チームを20位まで押し上げました。
4区のインターナショナル区間では15人の外国人ランナーが名前を連ねる中、駅伝で頑張りたいという強い思いを持って9月に移籍加入してきたばかりの小池選手がしっかりと走り、20位をキープして5区へとつなぎました。
3区同様に距離が長く、多くの起伏と向かい風が待ち受けるタフな5区では、大黒柱の鈴木千晴選手が魂のこもった走りで順位を1つ上げ、ボーダーラインの16位を視界に捉える19位でアンカーへ襷をつなぎました。
最終順位が決まる6区では、2年目の矢内選手が力を振り絞って激走し、ゴール手前では、沿道で声援を送る応援団の目の前で2チームを抜き、17位でゴールしました。
サポートに回った選手を含め、本大会出場をめざしてチーム一丸となって戦いましたが、予選通過となる16位にあと一歩届かず、悔しい結果となりました。
当日現地で声援を送ってくださった200名を超える大応援団の皆さま、そしてテレビやYouTubeを通じて応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました。いただいた数多くの温かいご声援に心より感謝申し上げます。
今大会に向けてトライしてきたことから見えたエラーを来年の成功につなげるため、振り返りを確実に行い、反省点を改善、強化して、ここからの1年間チームとして成長してまいります。





1区 7km 鈴木 樺連

24分15秒 区間26位





本当にたくさんの熱いご声援をありがとうございました。
沿道で応援してくださった皆さんの声援は、苦しい走りのなか、私の背中を押してくれました。
テレビを通じて応援してくださった皆様にも、心より感謝しております。
私自身、直前のコンディション不良を言い訳にしたくはないのですが、後を走る区間の選手に勢いをつけることができず、むしろチームに負担をかけた走りをしてしまい申し訳ない気持ちでいっぱいです。応援してくださる方の期待に結果でこたえたいと思っておりましたが、2年連続予選落ちという結果を重く受け止め、キャプテンとしてもっとチームと向き合っていきたいと思います。
悔しい結果となってしまいましたが、応援に来てくださった皆さんには「お疲れさま、また来年頑張ろう！」と言っていただいてその言葉に救われました。
次は三度目の正直となりますが、来年こそは絶対にクイーンズ駅伝の切符を掴み取ります。
これからも、女子陸上競技部へのご声援をよろしくお願いいたします。
本当にたくさんの応援をありがとうございました。





2区 3.6km 中川 千愛

11分46秒 区間 11位







なかなかチーム状況や雰囲気も含め、この1年間うまく流れに乗れないまま過ごしてきた結果が、そのままレースの結果として表れたと感じています。
個人としても1年前に疲労骨折をして、かなり重度だったこともあり、焦りを感じながらなかなか思うようにいかない中で、もがき苦しんできました。復帰までに時間を要しましたが、9月の日体大のレースを終えてから自分自身と向き合い、さまざまなことを考えました。
そこから気持ちを切り替えることができ、万全な状態ではありませんでしたが、最低限まで戻ってくることができました。ここからが勝負だと思っていますので、まずは日本のトップレベルで戦える選手になるために、地道に努力することを継続していきます。
また、プロのアスリートとして競技を追求していき、自分自身を成長させていき、陸上界を大きく変えます。
沿道でのたくさんの応援ありがとうございました。みなさまの声援がとても大きな力になりました。日立の社員の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。次はしっかり結果で恩返しします！





3区 10.7km 花野 桃子

36分35秒 区間 13位



プリンセス駅伝で3区を走りました。
3区に決まってから最大限の準備をしようと練習してきましたが、緊張やプレッシャーもあり駅伝を走ることは怖かったです。
その中でもチームメイトが襷をつないできてくれたおかげで、今の力を出し切る走りはできましたが、自分の実力が足りずに、16位との差を詰めることができませんでした。
この1年、自分を変えられるようにやってきましたが、今年も3区を任されたのにもかかわらず後半に上手く流れを作ることができず、申し訳ない気持ちでいっぱいです。
走っている間はずっと苦しかったですが、沿道からたくさんの応援が聞こえてきて最後まで1つでも前に行くという気持ちで走り切ることができました。
来年こそは結果で恩返しできるチームになれるよう頑張ります。
本当にたくさんの応援をありがとうございました。

4区 3.8km 小池 彩加

12分50秒 区間 24位







現地での応援、テレビやライブ配信を通じての応援、本当にありがとうございました。
中でも沿道での応援は大きな力となり苦しい場面でも踏ん張ることができました。
日立に移籍して約2ヶ月。何がなんでもプリンセス駅伝を突破し、クイーンズ駅伝につなげる。この思いを胸にトレーニングに励んできましたが、個人として力及ばず、前を追える良い位置で5区の鈴木選手へ襷を渡せなかったことを思うと、悔しさが込み上げます。
また、チームとしてもクイーンズ駅伝につなげることができず、本当に悔しく思います。
それでも、ここまで取り組んでこられたのは、スタッフやチームメイトの支えがあったからこそです。
たくさんのサポートがあったからこそ、思い切ってスタートラインに立ち、臨むことができました。本当に感謝しています。
今回の駅伝を通じて、個人としてもチームとしても多くの収穫がありました。
良い結果を報告できなかったことは心苦しく思いますが、この悔しさを忘れず、力に変え、来年のプリンセス駅伝に向けて、ここからまたチームみんなで頑張っていきます。
当日を迎えるにあたり、たくさんのご支援、ご声援をいただいた関係者の皆様、社員の皆様、そしてファンの皆様、本当にありがとうございました。今後とも日立女子陸上競技部への温かいご声援を、どうぞよろしくお願いいたします。本当にたくさんのご声援をありがとうございました。

5区 10.4KM

鈴木 千晴

35分31秒　区間 13位

昨年の悔しさから１年、仙台へ必ず行くことを強く胸に抱き練習してきました。しかし自身の区間で流れを変える走りが出来ず、悔しい気持ちが大きいです。駅伝は一人の力だけではなく、チームが結束してこそ大きな力につながると感じています。今回の結果を受け、更にチームのベテランとして競技人生の最後まで夢を諦めず、挑戦し続けることの大切さをチームに伝えていける選手でありたいと思います。
必ずこの悔しさを成長につなげられるよう、チーム全員で向き合っていきます。
現地やテレビを通じてたくさんのご声援をありがとうございました。







6区 6.695km

矢内 楓恋

22分14秒　区間 10位

今回、私は6区を走らせていただきました。前を追いかけつつも冷静に自分のリズムで押していき、久しぶりに自分の納得のいく走りができました。残り400mくらいで2人を捉えることができましたが、あと1人に追いつくまでが遠く、この1つの順位の重みをしっかり受け止め、来年こそはクイーンズ駅伝への切符をつかみ取れるよう、また一から頑張っていきたいと思います。
大会当日は暑い中、現地まで足を運んでくださった方々、そしてライブ配信を通じて応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました。
苦しい場面での皆さんの応援がとても力になり最後まで全力で駆け抜けることができました。



























たくさんの応援ありがとうございました！来年こそは必ず予選突破を果たします！





